

広島に14年ぶりとなる新しい通信制私立高校「シンギュラリティ高等学校」が開校しました。転入生を含め、生徒数は現在約250名となっています。

学校名の「シンギュラリティ」は、AIが人間の知能を超えるといわれる技術的特異点を指す言葉です。2045年とされるその時代を、子どもたちが不安ではなく希望を持って迎えられようになりたい。これが、私たちの出発点でした。同時に「シングル」、つまり他ならぬ自分自身を大切にしたいという思いも、この名前には込めています。

生徒にはよく、「学校を、自分の楽しい場所になるように活用してほしい」と伝えています。サッカー部やAI部などの部活動に力を注ぐ生徒



シンギュラリティ高等学校運営統括責任者

白石 直也 (しらいし なおや)

広島に14年ぶりの新設校 —「没頭」が学びになる高校—

もいれば、アート活動に没頭している生徒もいます。eスポーツのプロ組織とパートナーシップを結び、競技として本気で取り組める環境も、今後整えていく予定です。

一人ひとりの「フロー＝夢中」になるきっかけを見つけ、それを突き詰めていける環境づくりが大切だと考えています。

特別活動も充実しています。町のお祭りの運営に関わったり、羊の毛刈りを体験したりと、教室の外での学びも多彩です。さまざまな活動や多くの大人と触れ合う中でスイッチが入り、自分の進路を見つけていく生徒も少なくありません。

生徒を支える仕組みとして、教員免許を持つスタッフが一人ひとりを担当する「ファシリテーター制度」

を導入しています。

学習面だけでなく、学校生活の不安や将来についても寄り添いながら、一緒に考えていきます。互いを「さん」づけで呼び合うフラットな関係性も、本音で話せる土台になっています。

授業では、レゴ®シリアスプレイ®と呼ばれるレゴを用いた授業を行っています。マサチューセッツ工科大学で開発された手法を、認定ファシリテーターが指導します。自分の内面と向き合い、他者とつながる架け橋として、キャリア教育に大きな効果を



向洋駅前キャンパス

を上げています。

一人ひとりの「好き」や「没頭」を出発点に、広島の課題解決を目指す人になること。そして、自分の人生を自分で選び取る力を育てたい。シンギュラリティ高等学校は、そんな思いを胸に、広島から新しい教育の形を発信しています。